

富山県の若者における浴衣の装い行動の構造

—和文化体験の一助として

孫 珠熙

Structure of Yukata-Wearing Behavior by Young People in Toyama Prefecture: As a Guide to Experiencing Japanese Culture

Ju-hee SOHN

Abstract

The purpose of this study is to clarify the behavior of young people in Toyama prefecture when they wear yukata at hot spring resorts, with a focus on its structure and characteristics.

The survey subjects were 286 university students (122 males and 164 females), and the survey period was from October to December, 2014. The results include:

Both genders selected “yukata whose base colors and patterns are different in men and women” as an ideal yukata. In particular, 59.8% of the women answered, “It is preferable for both genders to have many choices regarding the types of yukata they want to wear.” This indicates that even among those of the same gender, people want to enjoy wearing yukata with patterns and colors that are different from others.

Factor analysis of “yukata-wearing behavior at hot spring resorts” (30 items, a six-point scale) extracted five factors: “comfort and relaxation,” “yukata-clad appearances,” “the desire to transform oneself,” “experiences in Japanese culture,” and “yukata you can choose from.” Female students were more aware of their appearance than their male counterparts, and they tend to have the desire to wear yukata that suit their preferences.

キーワード：温泉浴衣，装い行動，和文化体験，地域活性化，富山県の若者

keywords：yukata worn at hot-spring resorts, wearing behavior, experiences in Japanese culture, local revitalization, young people in Toyama

1. 緒言

とやま観光推進機構（高木繁雄会長）が3大都市圏の住民（20代～60代，1560名）を対象に行った意向調査の結果（2017年5月12日発表）によると，富山を訪れたい季節は「冬」がトップで，理由の上位は「食」，「冬景色」，「温泉」である。人気のある観光スポット「雪の大谷」も「雪」が魅力である。しかし多くの富山県民は「雪の大谷」に行ったこともないし，行きたいと思っていないようだ。旅行に行くのなら遠くへ行きたいのだろう。「冬景色」は情緒的な景観を求める感性であり，「温泉」では旅館で和装の浴衣（ゆかた）を着ることとなる。「食」は首都圏より安くおいしい。

この上位に挙げた「冬景色」，「温泉」，「食」はまさに，衣・食・住の生活そのものと関連が深く，その理由の背後には女性の求める感性・情緒感，非日常の体験，楽しさ，癒しが潜んでいる。さらに多

様化するライフスタイルも影響していると考えられる。つまり，生理学的な快適性（例えば寒いからお風呂に入りたい）ではなく，より高次元の欲求として（例えば，温泉で気分よく，自分らしさを求める）心理的な快適性を求めている。

温泉は日本を代表する文化であり，日本温泉総合研究所（2017年3月発表）によると，温泉施設の数日本に20,972カ所存在している。

諸外国にも温泉文化は存在しているが，日本の温泉文化の大きな特徴として，入浴を目的とする温泉に宿泊や休憩を兼ねた温泉宿が併設されていることが挙げられる。そしてその温泉宿に宿泊した際に館内着の制服（ユニフォーム）として，主に着用される衣服が浴衣である。

2000年頃から，訪日外国人を含め利用者の層は多様化・個性化が進んでいる。日帰り入浴でありながら浴衣を着用したり，施設内で手頃な値段で食事を楽しんだりできるサービスは，ライフスタイルの変

化に焦点を合わせた新たな和文化体験と考えられる。東京都の温泉では男性用4種に身長別4サイズ、女性用5種に身長別5サイズの全9種類の色浴衣を用意し、利用者が自分の好みや身長サイズに合わせた浴衣を着用できるサービスがあり、人気の要因のひとつになっている。2016年12月は中国の上海に日本そっくりのコピー版の温泉がオープンした。従来には旅館でしか着られなかった宿の制服の浴衣を日帰り施設の温泉でも浴衣貸し出しサービスをする温泉が増え、今後ますます需要が高まることが予測される。

本研究では温泉浴衣に注目し、より満足度の高い和文化体験の提供を目指すために、温泉浴衣の装い行動の構造とその特性を明らかにすることを目的とした。

先行研究、孫(2015)、孫・中嶋(2017)では温泉宿で着用される浴衣に対するイメージおよび装い行動の特徴、温泉宿の選択基準を明らかにした。本報は富山県の若者男女の温泉浴衣の装い行動に関する意識の特徴を可視化した。また、より総合的にみるために、浴衣の装い行動について、構造方程式モデリングで検討を行った点がこれまでの研究に比べて優位であると言える。そしてこれらの研究成果が温泉地の多い富山地域の活性化を図るための一助になることを期待する。

2. 方法

2-1 調査対象者と調査内容

(1) 調査対象者は筆者の講義を履修している大学生を対象とした。標本数は男性122名女性164名の合計286名、調査時期は2014年10月～12月である。

(2) 測定尺度項目は、「基本属性」、「経済状況」、「温泉地で足湯体験時に着てみたい衣服」、「温泉宿での理想の館内着」、「温泉浴衣の装い行動(30項目6件法)」である。6段階評定尺度は(6点：非常に当てはまる, 5点：当てはまる, 4点：やや当てはまる, 3点：あまり当てはまらない, 2点：当てはまらない, 1点：全く当てはまらない)で回答してもらい、それぞれに対して6点から1点を与え評定を求めた。

(3) 調査方法は質問紙調査を行った。これらの測定尺度項目は筆者がこれまでの研究を基に独自に作成した。

(4) 分析方法はIBM SPSS Statistics 23.0Jを用いて、平均値の差の検定(t検定)、因子分析を行った。さらに、AMOS23.0Jを用い、共分散構造分析を行った。

3. 結果および考察

3-1 基本属性と経済状況

「基本属性」は表1に示す。出身地は富山が44.4%でもっとも多かった。次いで石川県が23.4%で、福井を含む北陸3県出身が70.9%である。学年は1年生が(82.2%)、2年生が(7%)、3年生が(2.8%)、4年生が(10%)で、1年生が全体の大半を占めた。

自己申告での平均身長は、男子171.7cm、女子158.5cmであった。2014年度の学校保健統計調査(17歳)では、平均身長が男子170.7cm、女子157.7cmで、男子1cm、女子0.8cm本調査の平均身長が上回った。自己申告での靴のサイズの平均は、男子が26.6cm、女子が23.8cmで

表1 基本属性

	男子N	%	女子N	%	全体N	%
人数(N)	122	42.7	164	57.3	268	100
学年						
1年生	96	78.7	139	84.8	235	82.2
2年生	9	7.4	11	6.7	20	7
3年生	3	2.5	5	3	8	2.8
4年生	2	1.6	1	0.6	3	1
欠損値	12	9.8	8	4.9	20	7
学部	N	%	N	%	N	%
人間発達科学部	58	47.5	77	47	135	47.2
経済学部	35	28.7	43	26.2	78	27.3
人文学部	11	9	32	19.5	43	15
工学部	11	9	3	1.8	14	4.9
理学部	3	2.5	6	3.7	9	3.1
医・薬学部	0	0	2	1.2	2	0.7
欠損値	4	3.3	1	0.6	5	1.7
出身地	N	%	N	%	N	%
富山県	50	41	77	47	127	44.4
石川県	22	18	45	27.4	67	23.4
福井県	4	3.3	5	3	9	3.1
外国	2	1.6	0	0	2	0.7
その他	44	36.1	37	22.6	81	28.3
	N	(cm)	N	(cm)		
身長	121	171.7	164	158.5		
靴のサイズ	122	26.6	162	23.8		

表2 経済状況

	男子		女子		全体	
	N	平均額(円)	N	平均額(円)	N	平均額(円)
一か月のアルバイト収入	71	44,272	106	37,410	177	40,163
一か月のお小遣い額	83	28,108	97	23,794	180	25,783
一か月の被服費	93	9,231	141	9,292	234	9,268

あった。

以下の「経済状況」については表2に示す。

(1) 一か月のアルバイト収入

一か月のアルバイト収入の平均額は、男子が44,272円、女子が37,410円、全体が40,163円であった。全国大学生生活協同組合連合会による全国の国公立および私立大学の学部学生を対象に調査した「第50回学生生活実態調査」の概要報告(2015.2)によれば、一か月のアルバイト収入の全国平均額は自宅生が32,370円、下宿生が25,560円であり、本調査の対象者の平均額はこれらを上回っていた。原因は送り額が減少し、バイトが増えていると考えられる。

(2) 一か月のお小遣い額

一か月のお小遣いの平均額は、男子が28,108円、女子が23,794円、全体平均額が25,783円であった。

(3) 一か月の被服費

一か月の被服費の平均額は、男子が9,231円、女子が9,292円、全体が9,268円であった。

(4) 温泉施設利用(宿泊)の予算

温泉施設を宿泊で利用する際の一回あたりの予算の平均額は、男子が11,937円、女子が11,808円、全体が11,868円であった。瀬戸(2015年度人間発達科学部特別研究)が「るるぶ」や「まっぶる」の温泉宿情報誌に掲載してある富山県温泉宿情報を基にした調査研究では富山県内の温泉宿(49施設)の宿泊費(1泊2食付)の平均額は12,267円であった

ため、男女ともに宿泊の予算が実際の宿泊費を1,000円ほど下回っていることがわかった。

(5) 温泉施設利用(日帰り)の予算(館内着レンタル付き)

温泉施設を日帰りで利用する際の一回あたりの予算の平均額は、男子が2,030円、女子が2,205円、全体が2,131円であった。東京都の温泉の入館料金(消費税込み2017.5基準)が平日2,612円、土日・祝日2,828円であることと比較すると、日帰りの予算についても男女ともに少し低いことが考えられるが、将来富山県にこのような施設があるなら、若者の考える予算額におさまるのではないかと考える。また、バイトで忙しくストレスの多い若者に和文化体験と癒しを提供できるので若者の利用客も増えると考えられる。富山県は東京都より地価が安く、土地も広い環境である。

3-2 温泉宿での理想の館内着

測定項目は以下のように6項目で、内容は「男女同じ柄・色、白地に紺柄の浴衣」、「男女同じ柄・色、白地に単色模様の浴衣」、「男女同じ模様で、地色が異なる浴衣」、「男女共に何種類もある中から自分の着たいものを選べる浴衣」、「男女で異なる無地色、上下別の室内着」、「男女で異なる無地色、上下同色の甚平」である。

図1は温泉宿での理想の館内着について択一回答で求めた結果である。最も多かった回答は、男子が

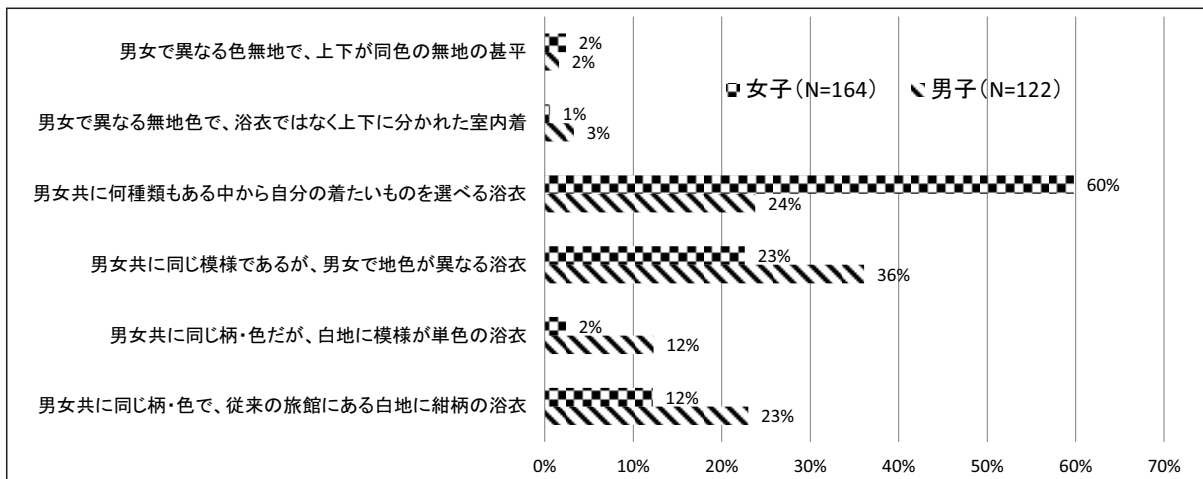


図1 温泉宿での理想の館内着

「男女共に同じ模様であるが、男女で地色が異なる浴衣」(36.1%)で、女子が「男女共に何種類もある中から自分の着たい浴衣を選べる浴衣」(59.8%)であった。また、「男女同じ柄・色、白地に紺柄の浴衣」と「男女同じ柄・色、白地に単色模様の浴衣」を合わせて利用者全員で同じ浴衣を着たいという回答、「男女同じ模様で、地色が異なる浴衣」と「男女共に何種類もある中から自分の着たいものを選べる浴衣」を合わせて利用者によって違う浴衣を着たいという回答に区別すると、同じ浴衣を着用したいという回答が男子(35.3%)、女子(14.6%)に対して違う浴衣を着用したいという回答が男子(59.9%)、女子(82.4%)となることから、利用者間、少なくとも男女間では違う地色の浴衣を着用したいと考えていることが分かった。

特に女子では「男女共に何種類もある中から自分の着たい浴衣を選べる浴衣」が約6割であることから、同性同士であっても違う柄・色の浴衣を着用することを楽しみたいと感じていると考えられる。そして「男女で異なる無地色、上下別の室内着」と「男女で異なる無地色、上下同色の甚平」は共に5%を下回っており、温泉宿を利用する際に着用する館内着については浴衣が圧倒的に支持されていることが分かった。

3-3 足湯体験に着てみたい衣服

理想の足湯体験について択一回答で求めた結果を表3に示す。男子では普段着での足湯体験を希望するという回答が(45.1%)、選べる浴衣での足湯体験を希望するという回答が(42.6%)であり、普段着での足湯体験を希望するという回答が選べる浴

衣での足湯体験を希望するという回答を僅かに上回ったが、興味なしという回答も約1割あったためどちらも5割を超えなかった。一方女子では、選べる浴衣での足湯体験を希望するという回答が(67.7%)、普段着での足湯体験を希望するという回答が(28.7%)であり、選べる浴衣での足湯体験を希望するという回答が普段着での足湯体験を希望するという回答の2倍を超えていた。女子の方が足湯体験において選べる浴衣を着用してより温泉体験の雰囲気を楽しむことを希望していると考えられる。

3-4 男女別の『温泉浴衣の装い行動』に関する各項目の平均値

「浴衣の装いの行動」30項目の各測定尺度の評定値1点から6点までの平均点で評定平均値が最も高かった項目は、男子が「12. 外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる」で、女子が「24. 自分好みの温泉浴衣を選べることは楽しい」であった。一方、評定平均値が最も低かった項目は、男子が「9. 浴衣の正しい着方(帯の位置、結び方)を知っている」で、女子が「21. 旅館の売店で衣服、布製品(タオル、下着)を購入したりする」であった。男子が浴衣姿の外人に親しみを感じ、女子は自分好みの浴衣があったらいいとの願望が高いことがわかった。この結果をユニフォームの浴衣に反映することが望ましいと思われる。

(1) 『温泉浴衣の装い行動』項目の男女の違い (t検定)

「温泉浴衣の装い行動」の評定平均値の差の検定(t検定)を行った結果、30項目のうち3項目が有意

表3 足湯体験に着てみたい服装

		選べる浴衣	普段着	興味なし	合計
男子	N(名)	52	55	15	122
	割合(%)	42.6	45.1	12.3	100
女子	N(名)	111	47	6	164
	割合(%)	67.7	28.7	3.7	100

①選べる浴衣で足湯体験



②普段着で足湯体験



③どちらも興味がない

水準0.1%，1項目が有意水準1%，4項目が有意水準5%，計8項目に男女の有意差が認められた。有意差が認められた項目のうち，男子の方がより当てはまると答えた項目は2項目で，「21. 旅館の売店で衣服，布製品（タオル，下着）を購入したりする（ $p<0.001$ ）」「14. 2名以上ではなく，気軽に一人で入ってもいい温泉があると良い（ $p<0.01$ ）」であった。

一方，女子の方がより当てはまるとした項目は6項目で，「24. 自分好みの温泉浴衣を選べることは楽しい（ $p<0.001$ ）」「15. 自分が選んだ色柄の浴衣で記念写真を撮りたい（ $p<0.001$ ）」「16. 他人が浴衣を着ると普段着より男らしく，女らしく見える（ $p<0.05$ ）」「28. 旅館の館内着は温泉浴衣より上下分離の甚平が良いと思う（ $p<0.05$ ）」「29. 温泉浴衣を着ると姿勢をよくするように気を遣う（ $p<0.05$ ）」「30. 他人の温泉浴衣の着方が正しくないと気になる（ $p<0.05$ ）」であった。「 」の番号は項目番号を示す。

この結果から男性の方が女性より，一人で温泉に行きたいと思っているほうが多く，女性は選べる浴衣を好んでおり，上下離れた甚平スタイルは好んでいないこと，着用時の姿勢も気にしているなど外見の様子に気を使っていることがわかった。

（2）男女の違いで有意差がみられた項目の詳細

「温泉浴衣の装い行動」30項目中，男女の違いで有意差が認められた8項目について，より詳細を見るために，男女別の6段階評定尺度それぞれの割合を図2-1～図2-8に示す。

図2-1の「14. 2名以上ではなく，気軽に一人で入ってもいい温泉があると良い」では，女子が「非常に当てはまる」「当てはまる」合わせて30.5%であったのに対し，男子は「非常に当てはまる」「当てはまる」合わせて51.7%であった。50歳になるまで生涯1度も結婚をしたことがない人の割合を示す「生涯未婚率」について2015年国税調査の結果，男性は4人中一人（23.37%），女性は7人中1名（14.06%）である。一人旅の対応やライフスタイルの多様化も視野に入れる必要があると考える。

図2-2の「15. 自分が選んだ色柄の浴衣で記念写真を撮りたい」では，男子が「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて50.8%であったのに対し，女子は「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて75.6%であった。SNSに記念写真をのせるため，顔の映りのよ

い色浴衣には女性がより興味を持っていることと考える。

図2-3の「16. 他人が浴衣を着ると普段着より男らしく，女らしく見える」では，男子が「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて68.8%であったのに対して，女子は「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて80.5%であった。このように浴衣を着る行動に関する印象評価には男性の7割，女性の8割が肯定しており，男性も女性並みの自分の印象や他人の印象を気にしていることがわかる。

図2-4の「21. 旅館の売店で衣服，布製品（タオル，下着）を購入したりする」では，男子が「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」合わせて74.7%であったのに対して，女子は「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」合わせて92.1%であった。女性は自分の身の回りの用品は自分で用意するため，男性の方が女性よりは布製品の購入が若干多いと言える。

図2-5の「24. 自分好みの温泉浴衣を選べることは楽しい」では，男子が「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて75.4%であったのに対して，女子は「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて89.0%であった。このように男性の7.5割，女性の9割が選べる色浴衣に興味を持っていることがわかる。

図2-6の「28. 旅館の館内着は温泉浴衣より上下分離の甚平が良いと思う」では，男子が「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」合わせて57.4%であったのに対して，女子は「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」合わせて67.1%であった。甚平は型の着崩れがなく機能的である。一方，浴衣は着脱しやすく，男らしさ女らしさの印象を与えられるが着崩れが予想される。若者男女の6割前後は甚平より浴衣が良いとの回答が得られた。

図2-7の「29. 温泉浴衣を着ると姿勢をよくするように気を遣う」では，男子が「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて43.5%であったのに対して，女子は「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて58.5%である。自分の姿勢を気にするのは女性の6割が肯定している。

図2-8の「30. 他人の浴衣の着方が正しくないと気になる」では、男子が「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて36.9%であったのに対して、女子は「非常に当てはまる」

「当てはまる」「やや当てはまる」合わせて45.1%であった。男性の6割以上、女性の5割以上が他人の浴衣の着方の見映えには気にしていない。

■まったく当てはまらない ✖当てはまらない ■あまり当てはまらない ≡やや当てはまる ■当てはまる ✧非常に当てはまる

■まったく当てはまらない ✖当てはまらない ■あまり当てはまらない ≡やや当てはまる ■当てはまる ✧非常に当てはまる

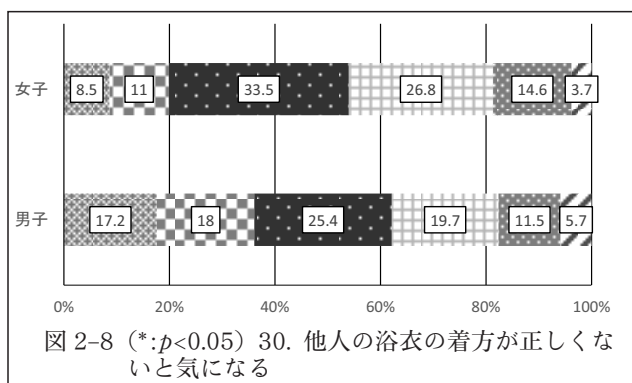
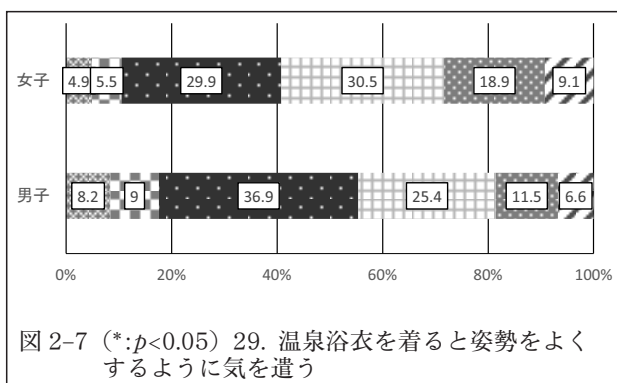
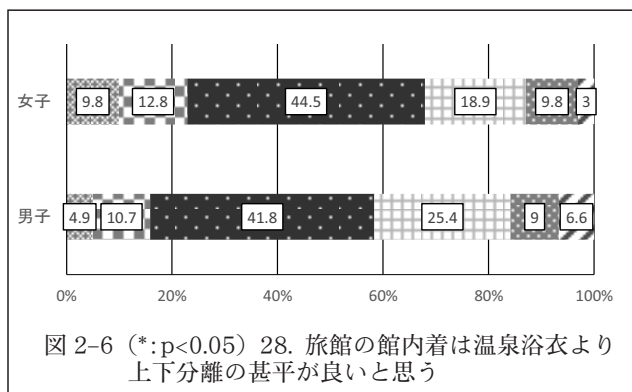
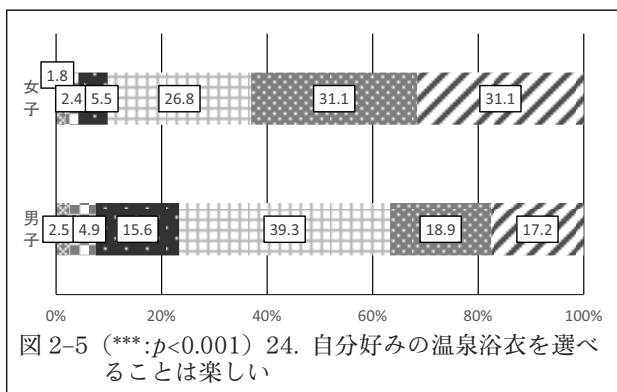
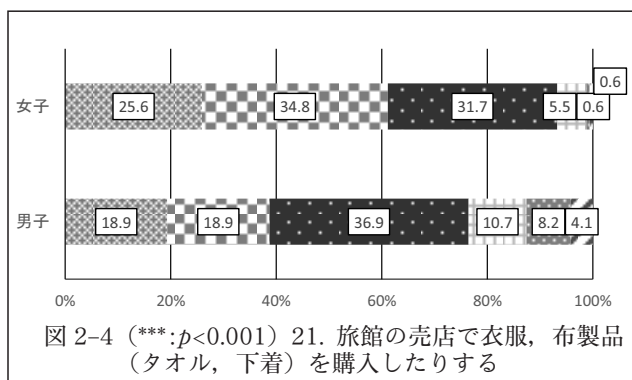
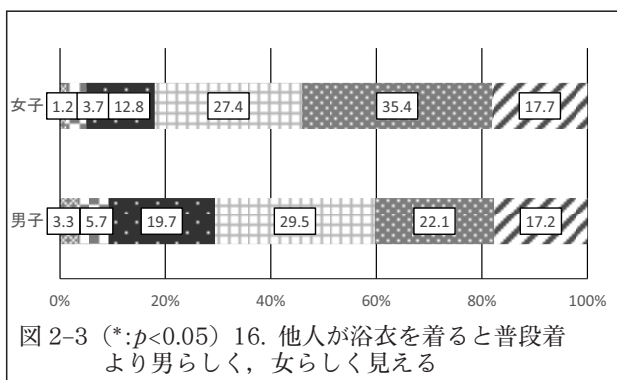
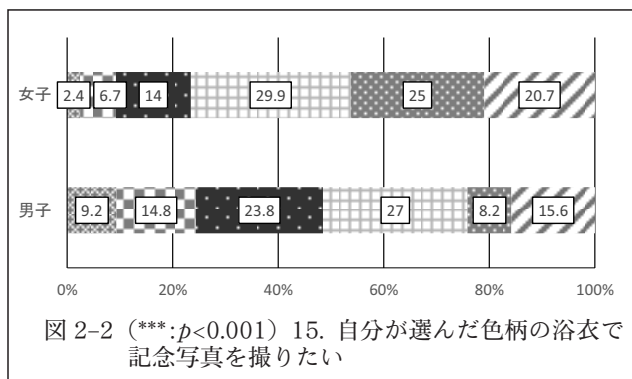
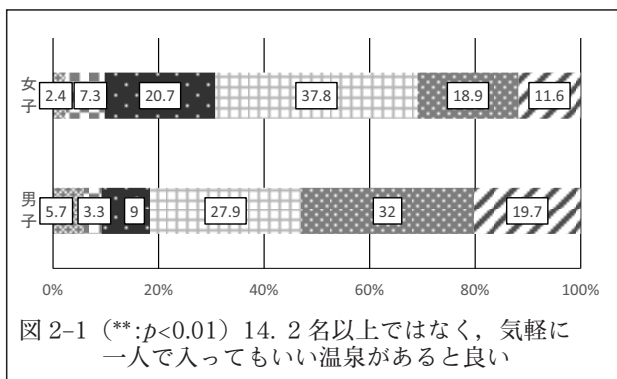


図 2-1～図 2-8 『温泉浴衣着用時の装い行動』男女の有意差が見られた8項目

3-5 温泉浴衣の装い行動の構造

「温泉浴衣の装い行動」に対する意識の構造を明らかにするために、30項目を変数に、男女学生286名を観測変数として、探索的因子分析を行った結果、固有値1.0以上で8因子が抽出された。固有値の推移と因子の解釈の可能性を考慮しながら、2つ以上の因子に負荷が見られた項目を削除し、計19項目で再度因子分析を行った(最尤法・プロマックス回転)。その結果5因子構造が妥当であると考えられた。最終的な因子パターンを表4に示す。

第1因子は「3. 湯上りに温泉浴衣を着ると癒される」, 「1. 浴衣に到着して普段着から浴衣に着替えると癒される」, 「7. 温泉浴衣を着て温泉宿周辺を散歩するのは楽しい」の3項目で構成されており『快適・癒し』を表す因子と解釈した。

第2因子は「16. 他人が浴衣を着ると普段着より

男らしく、女らしく見える」, 「15. 自分が選んだ色柄の浴衣で記念写真を撮りたい」, 「22. 普段着より温泉浴衣を着ると大人っぽく見える」, 「17. 他人が浴衣を着ると普段着よりセクシーに見える」, 「5. 足湯には温泉浴衣を着て入りたい」の5項目で構成されており『着用時の見た目』を表す因子と解釈した。

第3因子は「11. 若者も気軽に温泉浴衣を着る機会があると和文化体験になる」, 「10. 温泉浴衣を着ることは変身願望を叶えてくれる」, 「13. 昼間に利用できる手軽な価格の温泉で浴衣を着て非日常の気分になりたい」, 「12. 外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる」の4項目で構成されており『若者・変身願望』を表す因子と解釈した。

第4因子は「4. 湯上りに普段着を着ると癒される」, 「2. 宿から帰宅するときに温泉浴衣から普段

表4 温泉地で着る「浴衣の装い行動」の構造 (男女大学生全体 N=286, 富山県)

「温泉浴衣の装い行動」測定尺度19項目 (Q22)	因子負荷量				
	F1	F2	F3	F4	F5
3. 湯上りに温泉浴衣を着ると癒される	.851	.364	.443	-.064	.521
1. 宿に到着して普段着から浴衣に着替えると癒される	.810	.337	.382	.033	.453
7. 温泉浴衣を着て温泉宿周辺を散歩するのは楽しい	.642	.405	.480	.017	.494
16. 他人が浴衣を着ると普段着より男らしく、女らしく見える	.336	.826	.452	.120	.455
15. 自分が選んだ色柄の浴衣で記念写真を撮りたい	.271	.701	.424	.228	.533
22. 普段着より温泉浴衣を着ると大人っぽく見える	.363	.644	.436	.068	.366
17. 他人が浴衣を着ると普段着よりセクシーに見える	.236	.567	.306	.103	.216
5. 足湯には温泉浴衣を着て入りたい	.461	.494	.387	.197	.411
11. 若者も気軽に温泉浴衣を着る機会があると和文化体験になる	.406	.462	.882	.060	.429
10. 温泉浴衣を着ることは変身願望を叶えてくれる	.306	.427	.664	.385	.358
13. 昼間に利用できる手軽な価格の温泉で浴衣を着て非日常の気分になりたい	.485	.513	.564	.136	.452
12. 外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる	.336	.336	.553	-.013	.253
4. 湯上りに普段着を着ると癒される	-.009	.041	.123	.680	.027
2. 宿から帰宅するときに温泉浴衣から普段着に着替えると癒される	-.065	.101	.133	.672	.072
19. 衣服の柄や色は伝統の模様より現代的な柄が良い	.032	.235	.012	.502	.072
23. 温泉浴衣を着ると気持ちが落ち着かない	-.345	.081	-.054	.453	-.174
25. 温泉浴衣を着ると快適な気分になれる	.690	.370	.418	.024	.891
26. 温泉浴衣を着るとゆったりした気分になる	.709	.336	.338	-.157	.769
24. 温泉浴衣を選べることは楽しい	.317	.533	.440	.196	.676
累積寄与率 (%)	29.7	38.4	44.4	49.3	52.4
因子相関行列					
F1 快適・癒し	1				
F2 着用時の見た目	.386	1			
F3 若者・変身願望	.478	.557	1		
F4 和文化体験, 普段着(負)	-.073	.239	.186	1	
F5 多様な浴衣	.602	.508	.487	.070	1

因子抽出法: 最尤法, Promax 回転

着に着替えると癒される」,「19.衣服の柄や色は伝統の模様より現代的な柄が良い」,「23.温泉浴衣を着ると気持ちが落ち着かない」の4項目で構成されており『和文化体験, 普段着(負)』を表す因子と解釈した。

第5因子は「25.温泉浴衣を着ると快適な気分になれる」,「26.温泉浴衣を着るとゆったりした気分になる」,「24.温泉浴衣を選べることは楽しい」の3項目で構成されており『多様な浴衣』を表す因子と解釈した。

これら第5因子までの19項目の全分散を説明する割合は52.4%であった。このことから温泉浴衣を着用時の装い行動として快適や癒しに繋がるものがより選択されることが分かった(表4)。I因子とIV因子間は負の相関がみられ、浴衣を着ることと普段着を着るTPO(時間・場所・場面)では非日常と日常の違いのように気分が異なることが考えられる。

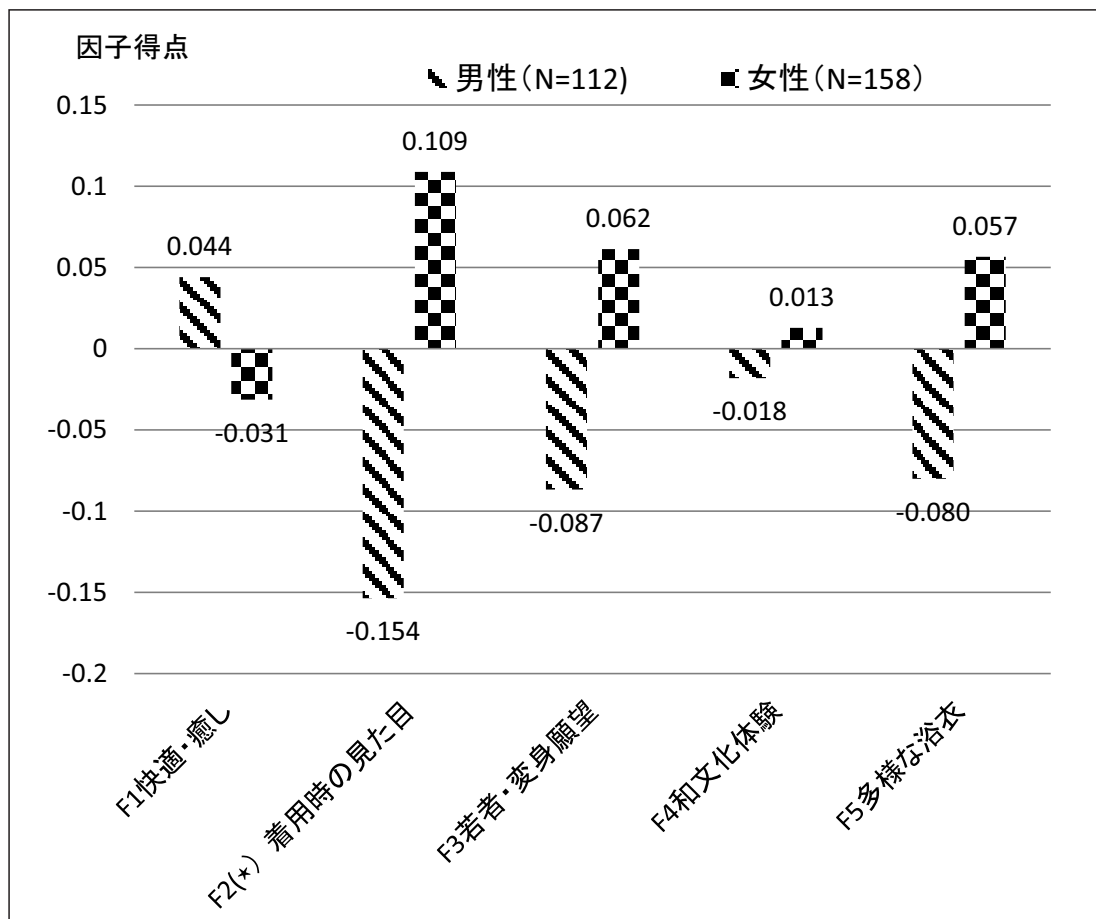
3-6 「温泉浴衣の装い行動」の各因子の因子得点における男女の違い

より総合的にみるために「温泉浴衣の装い行動」

の因子分析で得られた各因子の因子得点に対して、男女間にどのような違いがあるかを明らかにするために、因子得点をもとに比較検討した。図3は各因子に男女の因子得点の平均値をプロットし、平均値の差の検定を行った結果を示す。男女間で最も大きな有意差が見られた因子は『F2着用時の見た目』に有意水準5%で有意差が見られた。一方『F1快適・癒し』『F3若者・変身願望』『F4和文化体験』『F5多様な浴衣』では男女間で有意差が見られなかった。有意差があった『F2着用時の見た目』の因子得点の平均値は男子に比べ女子の方が高かったため、女子は男子より温泉浴衣を着用する際に着用した自分の見た目に対する意識が高く、可能ならば自分の好みに合った温泉浴衣を着用したいという傾向があると考えられる。

3-7 「温泉浴衣の装い行動」の構造方程式モデリング

「温泉浴衣の装い行動」について、SEM (Structural Equation Model 構造方程式モデリング: 分析の目的)を視覚的に表すため、分析をするプログラムであ



*: p < 0.05

図3 「温泉浴衣の装い行動」の因子得点の男女比較

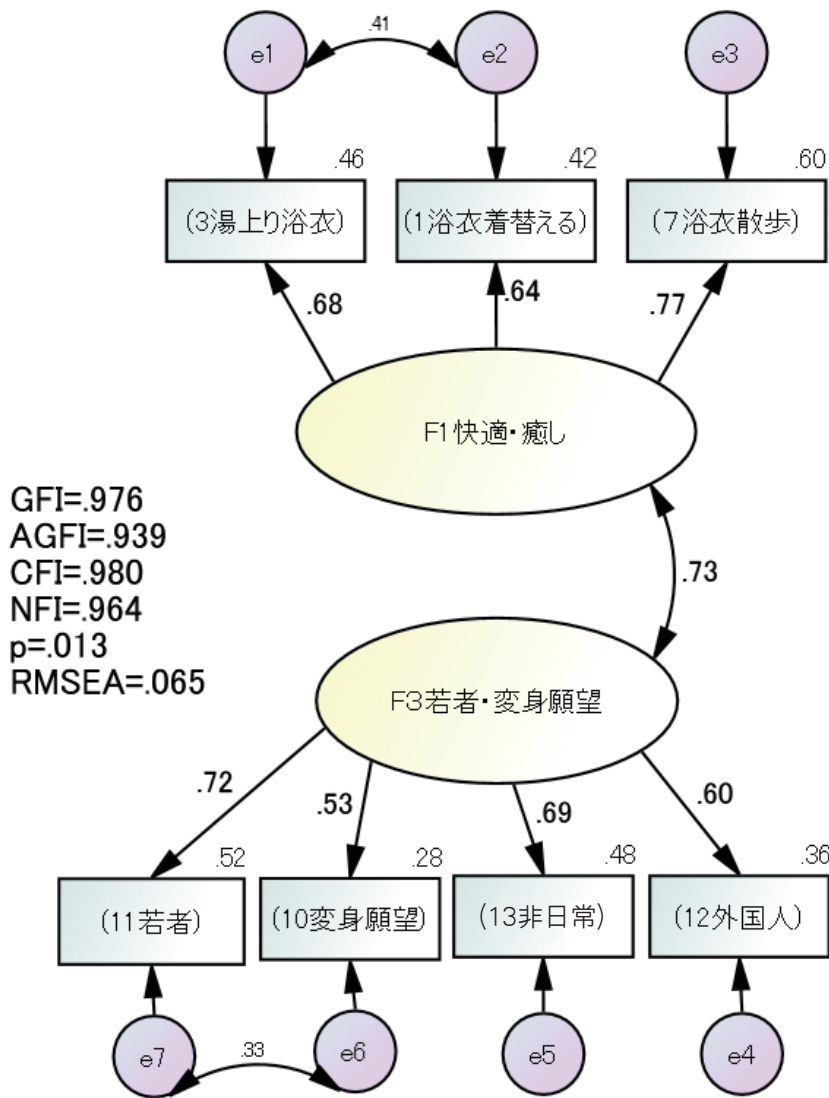


図4 「温泉浴衣の装い行動」の構造方程式モデリング (富山県の大学生)

るAMOS (Analysis of Moment Structures 共分散構造分析) を用いて検討した。図4は潜在変数(「F1 快適・癒し」, 「F3 若者・変身願望」)や観測変数(「3. 湯上りに温泉浴衣を着ると癒される」, 「1. 浴衣に到着して普段着から浴衣に着替えると癒される」, 「7. 温泉浴衣を着て温泉宿周辺を散歩するのは楽しい」)の関係性を、有意なパス図を用いて表現し分析した。つまり、「浴衣の装い行動」を構成する潜在変数(楕円形で描かれる変数のこと)で、直接的に測定されていない変数又は概念的に表されるものと観測変数(四角形で描かれる変数のこと)で、直接的に測定された変数)の構成概念間の因果関係を構造方程式モデリング(SEM)の手法(2007豊田秀樹)を用いて検討した。構造方程式モデリング(SEM)は因子分析と回帰分析を同時に行うモデルという言い方もされる。図4は女子学生における「F1 快適・癒し」と「F3 若者・変身願望」

についてモデルの妥当性を検討した。

その結果、適合度指標はGFI (Goodness of fit index=0.976), 修正適合度指標 AGFI (Adjusted GFI=0.939)は高いほど適合, 近似誤差平方平均根 RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation=0.065)は0.07以下で適合とされるので,

モデルの説明力, データへの当てはまりなどから, 適合度が高いと言える。浴衣を着て宿周辺を散歩する(0.77), 湯上りに浴衣を着ると癒される(0.68), 普段着から浴衣に着替える(0.64)などの『F1 快適・癒し』行動は, 若者も気軽に温泉浴衣を着る機会があると和文化体験になる(0.72), 昼間に利用できる手軽な価格の温泉で浴衣を着て非日常の気分になりたい(0.69), 外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる(0.6), 温泉浴衣を着ることは変身願望を叶えてくれる(0.53)などの『F3 若者・変身願望』と双方向で関連が高い(0.73)ことが明らかに

なった。また、適合度指標も十分な値を示しているため、有効なモデルと言える。以上のことから湯上りに浴衣を着ることで癒されたり、浴衣を着て散歩したりする行動は、和文化体験の一助として若者にポジティブに影響すると言える。つまり、気軽に利用できる手頃な価格の日帰り温泉施設で浴衣を着て非日常的な気分になりたい願望は、心理的な快適性や癒しの双方で高い関連があることが構造方程式モデリングより明らかになった。

3-8 東京都の「日帰り温泉施設」の様子： 温泉浴衣のサイズと種類

日帰り温泉施設の様子を図5に示す。

①サイズと浴衣の番号、②成人男性用浴衣、③子ども用浴衣、④成人女性用浴衣、⑤⑥足湯である。

男性浴衣サイズはM (160cm), L (170cm), LL (180cm), 3L (190cm), 女性サイズはS (150cm), M (160cm), L (170cm), LL (180cm), 3L (190cm)である。単位 (cm) は身長を表す。浴衣の種類は男



①サイズと浴衣の番号



②成人男性用浴衣



③子ども用浴衣



④成人女性用浴衣



⑤足湯



⑥足湯

図5 東京都の日帰り温泉施設の様子 ①～⑥ (撮影 孫 珠熙)

性用4種、女性用5種の計9種類である。それに帯を黒、赤、青、黄の4色から選べる。子ども用も計7種程度備えてある。案内表示は英語、日本語、韓国語、中国語で案内。

4. まとめ

著名なマズローの高次元欲求論では低次元の欲求に①生理的な欲求、次に②安全・安心への欲求、次に③集団・所属への欲求、④自尊心・他者による尊敬、⑤自己実現への欲求の段階説がある。マズローの心理学では欲求あるいは動機の理論において、高次の成長欲求(動機)を重くみており、自己実現という高次元欲求は明確な動機としてあらわれる。この理論は衣生活においても適応でき、衣服の選択の動機にもあらわれる。さらに印象形成や対人魅力、価値観、感情、文化的要因として和文化体験にも影響を与える。

従来的高级温泉宿で着るステータスのある館内着のゆかたが、近年は日帰り温泉施設でも気軽に和文化体験を楽しめるカジュアルな浴衣に進化している。衣服が心に与える影響が大きいことを考えると、地方の温泉地に備えてある館内着を選べる浴衣にかえることで、和風の情緒的な雰囲気演出することができ、利用客は非日常の癒しを味わうことができることが本研究では明らかとなった。

(1) 若者の経済状況について一か月のアルバイト収入の平均額は、男性が44,272円、女性が37,410円であった。全国大学生活協同組合連合会による概要報告(2015.2)によれば、一か月のアルバイト収入の全国平均額は自宅生が32,370円、下宿生が25,560円であり、本研究の対象者の平均額はこれらを上回っていた。原因は仕送り額が減少し、バイトが増えていると考えられる。

浴衣体験のできる温泉施設利用(日帰り)の予算額については、男性が2,030円、女性が2,205円であった。

(2) 「男女で同じ浴衣を着用したい」について、男性(35.3%)、女性(14.6%)に対して、「男女で違う浴衣を着用したい」という回答が男性(59.9%)、女性(82.4%)となることから、男女間では違う地色の浴衣を着用したいと考えていることが分かった。特に女性では「男女共に何種類もある中から自分の着たい浴衣を選べる浴衣」が約6割であることか

ら、同性同士であっても違う柄・色の浴衣を着用することを楽しみたいと感じていると考える。

(3) 足湯体験に着てみたい服装については、男性は普段着での足湯体験を希望(45.1%)、選べる浴衣での足湯体験を希望する(42.6%)であり、興味なしという回答も約1割あった。女性は、「選べる浴衣での足湯体験を希望する」が(67.7%)、「普段着での足湯体験を希望する」が(28.7%)であり、選べる浴衣での足湯体験を希望するという回答が普段着での足湯体験を希望するという回答の2倍を超えていた。

(4) 男女別の『温泉浴衣の装い行動』に関する30項目の平均値の違いについて、平均点で評定平均値が最も高かった項目は、男性が「外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる」で、女性が「自分好みの温泉浴衣を選べることは楽しい」であった。一方、平均値が最も低かった項目は、男性が「浴衣の正しい着方(帯の位置、結び方)を知っている」で、女性が「旅館の売店で衣服、布製品(タオル、下着)を購入したりする」であった。男性が浴衣姿の外人に親しみを感じ、女性は自分好みの浴衣があったらいいとの願望が高いことがわかった。

(5) 「温泉浴衣の装い行動」項目の男女の違いについて、t検定を行った結果、30項目のうち3項目が有意水準0.1%、1項目が有意水準1%、4項目が有意水準5%で、計8項目に男女の有意差が認められた。有意差が認められた項目のうち、男性の方がより当てはまると答えた項目は2項目で、「旅館の売店で衣服、布製品(タオル、下着)を購入したりする」「2名以上ではなく、気軽に一人で入ってもいい温泉があると良い」であった。一方、女性の方がより当てはまるとした項目は6項目で、「自分好みの温泉浴衣を選べることは楽しい」、「自分が選んだ色柄の浴衣で記念写真を撮りたい」、「他人が浴衣を着ると普段着より男らしく、女らしく見える」、「旅館の館内着は温泉浴衣より上下分離の甚平が良いと思う」、「温泉浴衣を着ると姿勢をよくするように気を遣う」、「他人の温泉浴衣の着方が正しくないと気になる」であった。この結果から男性(51.7%)の方が女性(30.5%)より、一人で温泉に行きたいと思っているほうが多く、女性は選べる浴衣を好んでおり、上下離れた甚平スタイルは好んでいないこと、着用時の姿勢も気にしているなど外見の様子に気を使っていることがわかった。今後のライフスタ

イルの多様化も視野に入れた対策が必要であると考え。

(6)「他人が浴衣を着ると普段着より男らしく、女らしく見える」については、男性の7割、女性の8割が肯定しており、男性も女性並みの自分の印象や他者からの印象を気にしている。

(7)『温泉浴衣の装い行動』の構造は5因子で構成された。第1因子は「快適・癒し」、第2因子は「着用時の見た目」、第3因子は「変身願望」、第4因子は「和文化体験」、第5因子は「多様な浴衣」と命名した。I因子「快適・癒し」とIV因子「普段着(負)=和文化体験」間は相関がみられ、浴衣を着ることと普段着を着る TPO(時間・場所・場面)では非日常と日常の違いのように気分が異なる。

(8)「温泉浴衣の装い行動」の共分散構造分析の結果、適合度指標 GFI (0.976)、修正適合度指標 AGFI (0.939)、RMSEA (0.065) で適合とされるので、モデルの説明力、データへの当てはまりなどから、適合度が高いと言える。浴衣を着て宿周辺を散歩する (0.77)、湯上りに浴衣を着ると癒される (0.68)、普段着から浴衣に着替える (0.64) などの『F1 快適・癒し』行動は、「若者も気軽に温泉浴衣を着る機会と和文化体験」を与え、「昼間に利用できる手軽な価格の温泉で浴衣を着て非日常の気分」になりたい、「外国人も温泉浴衣を着ていると親しみを感じる」、「温泉浴衣を着ることは変身願望を叶えてくれる」などの『F3 変身願望』と双方向で関連が高い (0.73)。

以上、富山県における若者の温泉浴衣着用に関する行動の構造を明らかにした。

謝 辞

本研究を実施するにあたりご理解とご協力を頂きました大学生および温泉旅館の関係者の皆様へ心より感謝を申し上げます。データの整理の一部には富山大学人間発達科学部の瀬戸翔平氏(当時大学生)に協力をいただきました。本課題は文部科学省の科学研究費の助成を受けて行われました(課題番号15K00749, 研究代表者:孫 珠熙)。

Acknowledgement

This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP15K00749

参考文献

- ・北日本新聞; 3大都市観光意向調査; 訪れたい季節「冬」トップ(2017.5. 13土)
- ・孫 珠熙: 浴衣の着装体験が温泉地域の活性化やファッションセラピーに及ぼす影響, 富山大学人間発達科学部紀要, 10 (1), 145-159 (2015)
- ・孫 珠熙・瀬戸 翔平: 温泉浴衣の装い行動の構造と特性, 日本家政学会第68回大会発表要旨(2016. 5)
- ・中嶋 史央里, 孫 珠熙: 若者の和文化体験からみた温泉宿利用と温泉ゆかたの嗜好傾向, 日本繊維機械学会北陸支部, 研究発表会要旨集(2016)
- ・孫 珠熙, 中嶋 史央里: 若者の和文化体験からみた温泉ゆかたの装い行動: 地方と都市の比較, 日本繊維機械学会北陸支部, 研究発表会要旨集(2016)
- ・Ju-hee SOHN, N.Kanayama, K. Kamachi ; Differences in the Impressions Associated with Yukata Worn at Events and Those Worn at Hot Spring Resorts, and the Differences in Yukata Preferences based on Gender, IFHE 2016 (世界家政学会大会, 韓国).
- ・神山進; 被服心理学, Social and psychological Study of Human Behavior Related to Clothing, 光生館(1985)
- ・日本繊維機械学会 被服心理学研究分科会編; 被服心理学(1988.9)
- ・辻 三郎; 感性の科学, サイエンス社(1997)
- ・神山進編集; 被服行動の社会心理学, 装う人間のころと行動, 北大路書房(1999)
- ・小林茂雄; 装いの心理, アイ・ケイコーポレーション(2003.3)
- ・小林茂雄, 藤田雅夫編著, 内田直子, 孫 珠熙, 内藤章江 著; 装いの心理と行動: 被服心理学へのいざない, アイ・ケイコーポレーション(2017.4)
- ・中川早苗; 被服心理学(新版) Social psychology of Clothing, 日本繊維機械学会編(2004.4)
- ・キム・K.P. ジョンソン(著), シャロン・J. レノン(著) 高木修訳; Appearance of Power 外見とパワー, 北大路書房(2004)
- ・鷺田清一; 服の力, 岩崎書店(2007.3)
- ・鷺田清一; 服とコミュニケーション, 岩崎書店(2007.3)

- 牛腸ヒロミ;ものとして, 心としての衣服, 放送大学教育振興会 NHK 出版 (2011)
- Dr. Jennifer Baumgartner; You Are What You Wear, What Your Clothes Reveal About You, Lifelong Books (2012)
- Jean-Gabriel Causse 著, 吉田良子訳; 色の力 (2016.6)
- Sharron J. Lennon (著), Kim K. P. Johnson (著), Nancy A. Rudd (著); Social Psychology of Dress (英語) ペーパーバック (2017.3)
- 豊田秀樹; 共分散構造分析「AMOS編」東京書籍 (2007)
- 第3の勢力マズロー (Maslow) の心理学, 産業能率大学出版部 (1972)
- 孫 珠熙, 中嶋史央里; 好みの温泉浴衣の類型化にみる装い行動, 第69回日本家政学会全国大会, 奈良女子大学 (2017.5)
- 孫 珠熙, 中嶋史央里; 若者の和文化体験からみた温泉浴衣の嗜好傾向, 富山大学人間発達科学部紀要, 11 (3), 39-49 (2017)
- 孫 珠熙; 若年層と中高年層における温泉浴衣の類型化と装い行動の特徴, 日本繊維製品消費科学会2017年 年次大会 (2017.6)
- Anna Perry and Juyoung Lee; Satisfaction with current martial arts' uniforms and purchase intention of new uniforms, Fashion& textiles (2017),
- Changhyun Nam, Huanjiao Dong and Young-A Lee; Factors influencing consumers' purchase intention of green sportswear Fashion& textiles (2017) 4:2
- Hyejune Park and Youn-Kyung Kim; An empirical test of the triple bottom line of customer-centric sustainability: the case of fast fashion, Fashion& textiles (2017)
- Sharron J. Lennon, Zhiying Zheng and Aziz Fatnassil; Women's revealing Halloween costumes: other-objectification and sexualization, Fashion& textiles (2017)
- Jaehee Jung and Choon Sup Hwang; Associations between attitudes toward cosmetic surgery, celebrity worship, and body image among South Korean and US female college students, Fashion& textiles, December (2016) 3:17
- Delisia Matthews, Cassandra Chaney and Jane A. Opiri; The Michelle Obama influence: an exploration of the first lady's fashion, style, and impact on women, Fashion& textiles (2015) 2:26
- Soozin Park, Kyeongsun Min and Yuri Lee Waiting in line at a fashion store: psychological and emotional responses, Fashion and Textiles (2014) 1:21
- Kim Johnson, Sharron J Lennon and Nancy Rudd; Dress, body and self: research in the social psychology of dress, Fashion& Textiles (2014) 1:20

(2017年5月22日受付)

(2017年7月13日受理)

和文要旨

本研究は富山県の若者の「温泉浴衣の装い行動」の構造とその特性を明らかにすることを目的とした。

調査対象者は大学生男性(122名)女性(164名)計286名, 調査時期は2014年10月~12月である。その結果, 温泉宿の館内着としての理想の温泉浴衣は, 男女ともに「性別で違う地色や柄の浴衣」であった。特に女子(59.8%)は「男女共に何種類もある中から自分の着たい浴衣を選ぶのがよい」と答えた。同性同士であっても違う柄・色の浴衣を着用することを楽しみたいと感じていると考えられる。

「温泉浴衣の装い行動(30項目, 6件法)」について因子分析を行った結果, 『快適・癒し』『着用時の見た目』『変身願望』『和文化体験』『多様な浴衣』の5因子が得られた。女子は男子より外見に対する意識が強く, 自分の好みに合った温泉浴衣を着用したいという傾向がみられた。